

○ 令和3年3月第423回定例会 教育委員会関係 代表・一般質問

質問 議員	質問内容	答 弁 内 容
林 議員	<p>小中学校再編計画の見直しとより良い教育環境について</p> <p>①検討結果に対する市長の受け止めは</p>	<p>本年度、教育委員会に設置された、大野市小中学校再編計画検討委員会において、再編計画の見直しに向けての協議がされ、令和3年2月19日に、検討委員会の松木委員長、遠藤副委員長から教育委員会にこれまでの会議での議論をまとめた報告書が提出されました。</p> <p>検討委員会では、小中学校再編の意義や本市の置かれた条件を勘案して、小中学校の数、再編の時期、方法についてまとめられました。</p> <p><u>委員の皆様が、1年間にわたり本市の子どもたちのことを考え、真摯にご議論いただいた結論が記載されているものと受け止めています。</u></p>
	<p>②再編計画(案)の説明会について</p>	<p>まず、再編計画(案)の説明会につきましては、小中学校や未就学児の保護者、各地区の皆さまや教職員などへの説明会を、<u>5月の連休が明けてから20回程度開催する予定としています。</u></p> <p>また、<u>再編の対象となる児童生徒や未就学児の保護者、地区の皆さまには、より丁寧に対応することとしています。</u></p> <p>説明会には私をはじめとして教育委員会事務局長、教育総務課長、学校教育審議監が各会場へ出向き説明し、再編に際しての参加者のご意見をお伺いします。</p> <p>説明会では、再編後の地域づくりなどのご意見も予測されることから、令和元年度に行った教育シンポジウムや意見交換会で出された意見を改めて振り返り、あらかじめ関係部局との情報共有と調整を行い、説明会に臨みたいと考えています。</p>
	<p>③タブレット端末の活用と教育現場の混乱予防策は</p>	<p>本市では令和5年度にかけてタブレット端末の整備を計画していたものを、GIGAスクール構想実現の加速により、早期に一人1台のタブレット端末の整備をすることとしました。</p> <p>現在、小学校において、<u>すでに配付されている1クラス分のタブレット端末を用いての授業が行われています。学校間でのオンライン授業も行われるなど、タブレット端末を取り入れた授業が実践されてきています。</u></p> <p>家庭教育との連携につきましては、新型コロナウイルス感染症予防や自然災害などによる<u>臨時休業に対応できるよう、家庭でも学校と同様に活用できる準備を進めていきます。</u></p>

学校への円滑な導入につきましては、本年度2回の研修会を行い、さらに今月末までにGIGAスクールサポーターを利用し4回の研修会を開催します。教員のスキルアップを図ることで、4月から子どもたちがスムーズに利用できるよう進めています。

今後は、タブレット端末を取り入れた新しい学校生活スタイルや、学校間だけでなく遠隔地とのオンライン授業などの研究も進めていきます。

○ 令和3年3月第423回定例会 教育委員会関係 代表・一般質問

質問 議員	質問内容	答 弁 内 容
永田 議員	<p>小中学校再編計画について</p> <p>① 現計画とは</p>	<p>現在の<u>大野市小中学校再編計画は、平成29年1月に策定されたもので、令和5年度に中学校を1校、令和8年度に小学校を2校、それぞれ校舎を新築して再編することとしています。</u>この計画は、保護者や市民の皆さまから様々な意見が出されたことから、平成30年8月に教育委員会において見直すことを決定し、それ以降見直しに向けた取り組みを進めてきたところです。本年度は、学識経験者をはじめ、保護者、地域、団体の代表と公募委員で構成する大野市小中学校再編計画検討委員会において、本市にふさわしい小中学校のあり方を検討していただきました。</p> <p>この委員会は公開して開催し、会議資料や会議録についても市のホームページに掲載していますので、検討経過をどなたでも確認することができます。</p> <p>先月19日に松木委員長、遠藤副委員長から教育委員会にこれまでの議論を取りまとめた報告書が提出され、検討委員会の結論として、学校数、再編時期、再編方法が記載されています。</p> <p>この報告書では、学校数を中学校2校、小学校7校に、再編時期は中学校を令和6年度、小学校を令和8年度とすることが望ましいとされています。また、将来も見越して、児童生徒数や教育制度改革の状況、社会情勢の変化などを注視して引き続き検討することにも触れられています。</p> <p>教育委員会は、この報告書を基に今月末までに再編計画（案）を作成し、新年度において保護者をはじめとした市民の皆様への説明会を開催するなど、学校再編に対して理解をいただけるよう努めていきます。</p>
	<p>② 長寿命化の対策が必要な建物や施設について</p>	<p>校舎につきましては、平成元年以前に建築された市内小中学校の校舎を対象に、経年劣化により建物の構造躯体のコンクリート強度が不足し、長寿命化に適さない建物を把握するため、本年度に学校施設コア抜き調査を実施しました。</p> <p>調査では、小中学校の校舎棟毎に、構造躯体からコンクリートコアを抜き、コアに圧縮力を加えて破壊時の強度を確認する圧縮強度試験と、コンクリート内部鉄筋の腐食状況を把握するコンクリート中性化試験を実施しました。</p> <p>これらの試験の結果、市内小中学校では、<u>尚徳中学校の校舎の構造躯体のコンクリート強度が長寿命化に適していないことが分かりました。</u></p> <p>検討委員会の報告では既存校舎を活用することとされています。今後、教育委員会で再編計画（案）を作成するにあたり、コア抜き調査の結果も踏まえて校舎の活用を検討したいと考えています。</p>

○ 令和3年3月第423回定例会 教育委員会関係 代表・一般質問

質問 議員	質問内容	答 弁 内 容
白崎 議員	<p>大雪への対応と 防災対策について</p> <p>成人式の延期 をどのように 決定したのか</p>	<p>今回の成人式開催につきましては、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、国や県、市の感染症予防に係る基準や他市町の状況などを参考に、例年より長い時間を掛け準備をしてきました。</p> <p>新成人の皆様には、開催日2週間前からの体調管理と、併せて感染が拡大している地域から参加される場合には、2週間の余裕を持つての帰省をお願いしました。</p> <p>会場での密を避けるため、2部制での実施や、会場に来られない方などに向け、新たにライブ配信なども取り入れ、1月10日に予定通り成人式を開催できるよう進めてきました。</p> <p>このような中、<u>1月7日から降り続いた雪は、8日には、観測地点の友江で127センチメートルの積雪となり、9日の午前5時には、同地点で140センチメートルに達しました。</u></p> <p><u>成人式は一生に一度の機会であり、新成人や関係者の皆様も準備を進めてこられ、また、新成人による実行委員会も着々と準備を整え、9日朝からリハーサルを行っていたことなどから、ぜひ開催したいとの思いはありましたが、降雪状況や交通状況を踏まえ、市と教育委員会で協議し、やむなく延期することと決定いたしました。</u></p> <p>延期の決定が、開催日の前日、9日の午後3時となったことから、準備されていた新成人や関係者の皆様には大変ご迷惑をお掛けしました。</p> <p>今後、このような状況となった場合、できる限り多くの情報を収集し、早い判断をしていきたいと考えております。新成人の皆様にとって、一生に一度の成人式です。3月21日の開催に向け、しっかりと準備を進めてまいります。</p>

○ 令和3年3月第423回定例会 教育委員会関係 代表・一般質問

質問 議員	質問内容	答 弁 内 容
高岡 議員	<p>教育長の政治姿勢について</p> <p>①生徒数の推移、近年複式になる学校について</p>	<p>本市の小中学校の児童生徒数につきまして、令和2年5月時点の状況を申し上げます。</p> <p>小学生は1,391人、中学生は813人、合計で2,204人となっています。複式学級は、小山小学校が2学級、乾側小学校が3学級、阪谷小学校が3学級、和泉小学校が3学級で合計11学級となっています。</p> <p>小学生、中学生ともに年々減少しており、平成元年度の小学生が3,320人、中学生が1,842人、合計で5,162人と比べて、小学生が約58%、中学生が約56%、合計数では約57%減少しています。</p> <p>また、10年後の令和12年度には小学生が1,055人、中学生が621人、合計で1,676人となり、平成元年度と比べて小学生が約68%、中学生が約66%、合計数では約67%減少すると予測しています。</p> <p>複式学級は、本年度末に乾側小学校の用途を廃止することに伴い、新年度においては、小山小学校が2学級、阪谷小学校が3学級、和泉小学校が2学級の合計7学級となると見込んでいます。</p> <p>年度によって学級数に若干の増減があるものの、<u>令和12年度までで申し上げますと、小山小学校、阪谷小学校、和泉小学校の3校以外に新たに複式学級を編成する必要がある学校は出現しないものと予測しています。</u></p>
	<p>②学校内部への説明をどのように考えているのか</p>	<p>教育委員会は、本年度末までに再編計画（案）を作成し、<u>新年度に小中学校や未就学児の保護者、各地区の皆さまへの説明会を20回程度開催する予定としています。</u></p> <p><u>教職員につきましても、この説明会への参加を呼び掛けるほか、教職員だけを対象とした説明会や校長会、教頭会への説明なども行うことを検討しています。</u></p> <p>新年度に再編計画を改訂した後、令和4年度から再編に向けた取り組みや準備を進めるにあたっては、これまでの再編のモデルを参考に、<u>対象となる学校の保護者や校区の住民代表の方に参画いただき、再編に向けた協議を行いたいと考えています。</u></p> <p><u>協議で決まった内容については、校長から児童生徒及び保護者に対して丁寧に説明します。</u></p> <p>特に、再編によって別の学校に移らなければならない児童生徒、保護者に対しては、より丁寧に対応したいと考えています。</p>
	<p>③不登校生徒等及び保護者への説明と</p>	<p>現在、不登校の児童生徒には、学校がきめ細かな対応をするとともに、スクールカウンセラーによる本人の心のケア、スクールソーシャルワーカーの家庭訪問、臨床心理士による保護者への支援など、専門職における個別支援を行っています。</p> <p>さらに、不登校を未然に防ぐことを目的として、児童生徒の気軽な相談相手となって心のストレスを和らげるために学校の規模に合わせて、結の故郷教育相談員を配置しています。</p>

<p>対策は</p>	<p>また、障がいをもつ子や逸脱した行動をとってしまう子など教育上配慮を必要とする児童生徒に対し、学校の状況に合わせて結の故郷教育支援員を適切に配置し、教員と連携をとりながら、児童生徒の学校生活や学習の支援を行っています。</p> <p>これらの支援や配慮を必要とする児童生徒に対しては、「個別的教育支援計画」を作成し、その子に合った支援を行っています。この支援は短期的なものではなく、進級しても学校が変わっても引き継がれます。</p> <p>今後、学校再編が進みましても、引き続き支援員の配置体制を整えていくことや、個別の支援計画を確実に引き継いでいくことで、変わりなく支援を継続していくことを、保護者に丁寧に説明していきたいと考えています。</p> <p>また、引き続き、魅力ある学校づくりを推進し、安心して希望をもって学校生活を送ることができるようにします。</p>
<p>④管内の教員の不祥事の把握と対策について</p>	<p>教職員は、全体の奉仕者としての立場を自覚し、社会的批判を招くことのないよう、地方公務員法第30条から38条等の服務に関する規定を遵守することとなっています。また、公務中はもとより私生活においても、市民及び児童生徒、保護者の信頼を失うことのないよう、社会規範を遵守することが求められています。</p> <p>学校では、校長が、年度はじめやあらゆる機会を通して教職員の倫理意識の高揚に努め、服務規律の確保と綱紀粛正の徹底を図っています。教職員による不祥事が発生した場合には、即座に報告を上げ対応することで、信頼回復に繋がることを全ての教職員が共通理解するとともに、これまで築き上げてきた本市の学校教育への信頼を決して失うことのないよう努めているところです。</p> <p>本年度、市内小中学校教職員においては、右折禁止違反などの交通違反が7件報告されています。これらの事例を全ての教職員が共有することで、自分のこととして捉えるよう注意喚起を図っています。</p> <p>教職員が健全に職務を遂行するためには、まず、児童生徒への指導をはじめ、校務全般において、教職員自身が、自分の職に自信と誇りを持つことであると考えています。そのためには、教職員への研修の機会を確保することや自信を持って授業に臨み、児童生徒が分かった、できたという声に教職員としての喜びを持つことができるよう支援をしていくことが必要です。本年度から改めて取り組んでいる魅力ある学校づくりは、児童生徒だけでなく、教職員にとっても通うのが楽しい学校となり、不祥事防止へと繋がると考えます。</p> <p>また、働き方改革を一層推進し、教職員が心身共に健康で、笑顔で児童生徒の前に立ち教職人生を豊かにしていくことも大切です。</p> <p>このように、綱紀粛正の徹底とともに、本市で働く全教職員が、職へのやりがいや達成感、満足感、そして自信と誇りを持つよう支援していきます。</p>

○ 令和3年3月第423回定例会 教育委員会関係 代表・一般質問

質問 議員	質問内容	答 弁 内 容
木戸屋 議員	<p>小中学校再編計画の見直しについて</p> <p>①説明会、検討委員会、総合教育会議等はいつ行われるのか</p>	<p>大野市小中学校再編計画検討委員会の報告書は、去る2月19日に松木委員長、遠藤副委員長から提出していただき、2月26日の定例教育委員会で報告したところです。</p> <p>教育委員会は、この報告を基に今月末までに再編計画（案）を作成する予定としています。</p> <p><u>新年度は、小中学校や未就学児の保護者、各地区の皆様や教職員などへの説明会を、5月の連休が明けてから20回程度開催する予定としています。</u></p> <p>この説明会では、再編の対象となる学校の保護者や未就学児の保護者には、より丁寧に対応することとしています。</p> <p><u>説明会終了後は、いただいた再編に際してのご意見や年末に実施を予定しているパブリックコメントも参酌して再編計画（案）を精査し、総合教育会議での協議と調整を行い、令和4年3月末までに計画を改訂することとしています。</u></p> <p><u>また、時期を捉えて検討委員会で確認していただく予定としています。</u></p>
	<p>②「大野らしき」とはどのようなことか</p>	<p>教育委員会は、大野市教育理念「明倫の心を重んじ 育てよう 大野人」を普遍のバックボーンとして、優しく、賢く、たくましい大野人を育てるため、本市の特色を十分に生かし、大野らしさが生きる教育を進めています。</p> <p><u>本市の人口規模や立地条件及び本市のもつ人情の厚さ、自然の豊かさ、歴史の深さなど、その長所を十分に生かすとともに、国際化社会や情報化社会の進展など、変化の大きい社会に対応できる人を育てる教育を推進します。そのことを通して、大野市教育理念に謳われる「生きる道」を明らかにし、「進取の気象」を育てます。</u></p> <p>まず、ふるさと教育について申し上げます。</p> <p>本市には、各地区で行われている伝統行事や伝統芸能などが数多くございます。また、水と緑が豊かな自然や幕末の大野藩の改革なども大野らしさを代表する魅力の一つです。</p> <p>学校では、このような人、歴史、文化、伝統、自然環境、食、産業など固有の魅力を、家庭、地域と連携した学びや体験の中で、児童生徒に継承していくとともに、大野人として未来を切り拓く気概を育てています。ふるさとを学ぶことから出発した探求活動は、最終的には大野人とは何か、自分はどのように生きると良いのかを自問することにつながります</p> <p>このように、児童生徒自身が未来のふるさと大野とどのように関わり、自己の将来をどう切り拓いていくかという、「生きる道」を明らかにする教育を推進します。</p> <p>また、温かい人間関係を有する本市の地域性を生かし、児童生徒の成長に応じた教育を進めます。</p>

	<p>小学校期は地域で育てる、中学校期は市全体で育てることを基本とします。</p> <p>小学校期は可能な限り地域の温かい見守りの中で、「愛され大切にされている安心感」を育てます。</p> <p>中学校期はより広く大野市全体で育て、「生きる力」と「社会性」を育みます。</p> <p>また、機動力のある適度な規模の地域性を生かし、一貫した指導観に基づく教育を進めます。</p> <p><u>本市は長年にわたって、開成・陽明・上庄・尚徳・和泉の5中学校区研究会を組織して、小中学校間で指導観を共有し一貫した教育を推進しています。</u></p> <p>さらに、小中学校に加えて未就学の段階から高等学校までの18年間を強く連携させたシステムづくりの実現をめざします。</p> <p>これらの大野らしさが生きる教育を推進し、郷土に自信と誇りを持ち、これからの時代を生き抜くことができる大野人を育てていきます。</p>
<p>③「大野は一つの学校だとする組織づくり」とは</p>	<p>検討委員会から提出された報告書の「大野は1つの学校だとする組織づくり」の項目では、『大野市は1つの学校である』との想定に立ち、大野市の小中学校の連携・協働をさらに深めるための体制づくりを進める」とされ、学校規模と通学距離のどちらを優先させるのか、又は教員の専門性と地域コミュニティのどちらを選択するかなどの相反する議論に陥ることなく、解決策を論議できると報告されています。</p> <p>つまり、大野市全体の教育の質を高めるという観点から、<u>小中学校が個々に教育活動を行っていただくだけではなく、様々な授業や生活で一体となることができることに取り組んでみよう、という考え方だと捉えています。</u></p> <p>さらに、報告書では、「学校でのリアルタイムの授業」と「どこでも学習できるオンデマンドの授業」「学校と学校を繋ぐ遠隔授業」の3つの形態をうまく構成することで、一体的な組織づくりができるとしています。</p> <p>例えば、学校単位で部活動のチームを作るのではなく、市としての様々なスポーツチームを立ち上げたり、学校間を遠隔でつなぐ授業を行ったりすることで、児童生徒が専門性の高い教員の指導を受けることができる、としています。</p> <p><u>本市では、本年度、陽明中学校、有終東小学校、下庄小学校、乾側小学校からなる陽明中学校区において「魅力ある学校づくり調査研究事業」を推進し、不登校児童生徒を生まない取り組みを実施してきました。</u></p> <p><u>新年度は、この取り組みを、5つの中学校区を中心に本市全体で取り組んでいきます。</u></p> <p><u>これも、大野は1つの学校であるという組織づくりの1つだと考えられます。</u></p> <p>このように、小中学校の再編は、児童生徒にとってより良い教育環境を整えるのみならず、より質の高い教育を保証することを目的として、検討委員会の報告を参考にさせていただきたいと考えています。</p>